

新型コロナウイルスの流行が結核対策に影響を及ぼしています

日本でも1950年代までは「国民病」「亡国病」と恐れられ、死亡原因の第1位でした。医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、今でも世界では年間1,000万人以上が新たに結核に感染し、150万人が結核で命を落としています。

新型コロナウイルスの世界的流行は、結核対策にも影響を与え、開発途上国では結核の診断や治療の遅れから、**結核死亡者がさらに増加**すると予測されています。また、日本においても**受診控えによる結核の重症化**や**死亡者数の増加**が懸念されています。



世界

結核を発病する人

年間約 1,000万人

結核で失われる命

年間約 150万人



日本

結核を発病する人

平成30年 15,590人

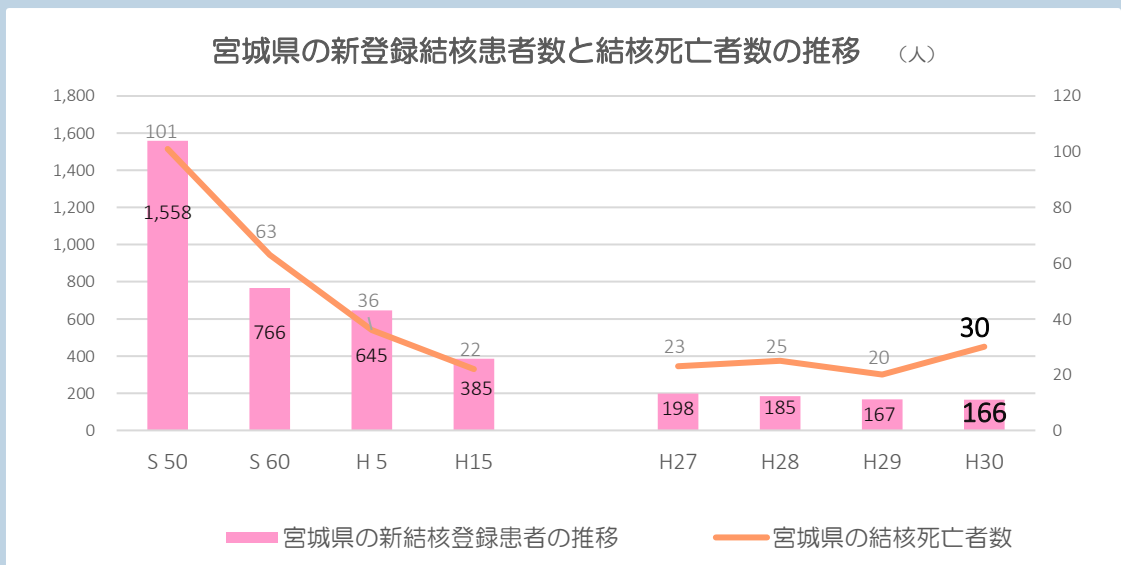
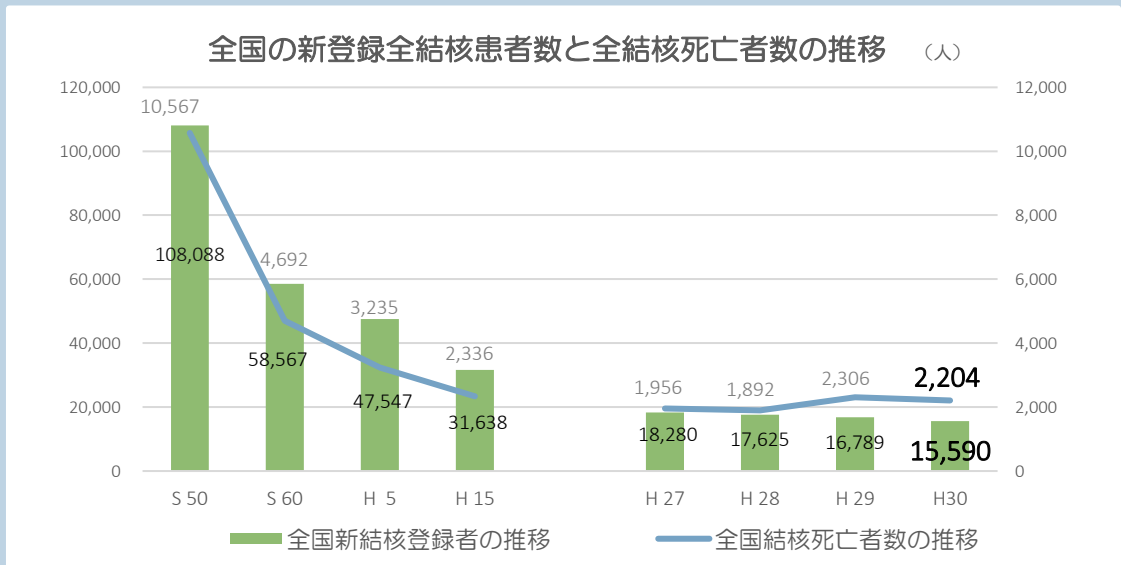
結核で失われる命

平成30年 2,204人 (概数)

結核は、

だれでもいつでも罹る、油断できない病気です。

症状がなくても定期的に健診を受けましょう！



※全国、宮城県ともに“H30結核死亡者数”は概数となります。

